

The background image shows a rooftop terrace of a modern building. Four young women in dark school uniforms are standing on the terrace. Two are on the left, looking towards the right. Two are on the right, looking towards the left. The terrace has a white metal railing and a blue safety net. The building is light-colored with a large window. The sky is clear and blue.

# Annual Report

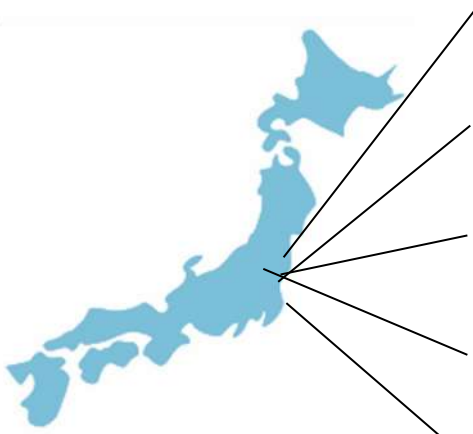
2022.04-2023.03



## 青春基地の活動概要

### 公立高校における長期プロジェクト

プログラムの提供だけでなく、3～5年間の連携協定を結ぶことで、授業づくりだけでなく、チームマネジメントやビジョンづくりなど包括的な学校づくりに取り組んでいます。



2017年度  
福島県立ふたば未来学園（総合学科・30名）  
場所：双葉郡広野町  
科目：未来創造探究

2018年～2021年度  
東京都立第一商業高校（商業科・1035名）  
場所：代官山（渋谷区）  
科目：ビジネス基礎ほか

2022年～2023年度  
東京都立日野台高校（普通科・320名）  
場所：日野市  
科目：総合的な探究の時間ほか

2019年～2022年度  
長野県市立長野高校（総合学科・640名）  
場所：長野市  
科目：総合的な探究の時間

2017年～2018年度  
山梨県立富士北稜高等学校（商業高校・60名）  
場所：富士吉田市

1校につき、年間100～300人のメンターが参画

© NPO法人青春基地 All Rights Reserved.

### 約5800人の中高大生にプログラムを提供

※2017年から2023年3月末現在のみ算出

多様な学生や社会人を巻き込みながら、探究や課題研究、修学旅行のなかで生徒の個をひきだす起爆剤として、スポットでの授業も届けています。



### その他：社会変革事業

教育の再定義にむけたアプローチを模索するべく、研究や新たなプロトタイプを立ち上げる「TANKEN」や、企業やソーシャルセクターと連携した社会変革プロジェクト、企業と大人の越境プログラム「SOTEIGAI」などに取り組んでいます。

NTT DATA  
NTTデータ システム技術株式会社

Microsoft  
ELAB

一般社団法人  
長野県  
Magazin Explains

学びプロジェクト  
roku you

atelier shimura

社会創発塾  
Social Emergence School

kora  
株式会社全領域社会創発塾

ほか





at 東京

2022年、東京での新たなチャレンジ

## 概要

今年度は、新たなフィールドとして東京都立日野台高校、そして清泉女子大学でのプロジェクト（株式会社rokuyouとの協働）が始まりました。都立日野台高校では、教員のみなさんと協働し、日野という地域をいかした「まちあるき」や多様なゲストと協働し、非言語的アプローチで自己表現する「ジェネレーティブワークショップ」などを実施。プロジェクトにおける内発的動機や「やってみる」というアクションの楽しさに触れました。また、清泉女子大学では「わたしのためのプロジェクト」と称して、自分の「やってみたい」「どうにかしたい」ことをテーマにプロジェクトを立ち上げる学びを展開。自分自身の新たな可能性や社会とのつながりを認識する時間となりました。

## 学びは生徒と一緒に「つくる」もの

青春基地の学生インターンの醍醐味は「学びづくり」です。

その中でもクラスのファシリテーションは、生徒から出てきた反応を学びづくりを生かす、というのが本当に大切だと思いました。自分自身が考えた写真のワークショップは、当初は学校の中で写真を撮影し、自分の視点と他者の視点の違いに気づくことをテーマにしていたのですが、実際にやってみると、生徒同士はむしろその違いを当たり前として捉え、楽しんでいる様子でした。「こういう時間になったら面白いだろうな、という考えはあるけれど、生徒たちの反応や感覚が異なる場合もある、むしろそれを拾い上げて授業をつくっていくことが大切なんだ！」と思いました。

こちらが意図しない、生徒の想定外な発想や姿によって授業が変化していく、ここに学びづくりの面白さがあると感じています。



インターン・伊東

## 東京チームの2022年

### ＝都立日野台高校での実践＝

#### 「Mission For Fun！」

グループごとにテーマを決め、ミッションに取り組むゲーム型のワークショップ。「クラス全員で鬼ごっこをする！」「先生方の好きな音楽を聞いて、プレイリストを作る」など、自由で多岐にわたるミッションが生まれました。1年生になりたての緊張感もありながら、ワークを通して、自分自身の好奇心を耕し、アクションすることの楽しさに気づいたようです。



#### 「まちあるき」

日野の街を歩き、探究的な興味関心を深ぼるワーク。街を歩く中で、目にしたこと、聞こえたことなど自分の五感に触れることでどんなことをやっていきたいかを考える時間になりました。生徒からは「多摩川近郊の撮影スポットについてもっと深掘りたい」「こんなに公園があるから活用したい」といった声が上がリ、「体験」することで探究テーマにつながりそうな視点も生まれました。



#### 「ジェネレーティブワークショップ」

（コラージュ、写真、アニメーションなど）

このワークショップでは、8クラスに1名ずつ、各分野のクリエイターと協働し「つくる」ワークショップを实践。上手/下手といった評価軸ではなく、好き/嫌いといった感覚を大切に制作した結果、生徒それぞれのオリジナリティや思いが作品に反映され「自分の作品は唯一無二」「正解とかな、自由なものをつくるのが楽しい」など、まさに自己表現の多様さが伺える感想が多く見られました。探究におけるマインドセットにも大きく繋がった時間だと思います。

※KDDI財団による助成を活用した実施・研究



### ＝清泉女子大学での実践＝

#### 『「わたし」のためのプロジェクト』

半年間の授業の中で、自己の興味関心から「マイプロジェクト」を立ち上げる授業。テーマ設定の段階では、マインドマップや対話などを通して得た気付きから、プロジェクトや自分自身への新しい発見を深めます。そこで、授業の大事なコンセプトとして「越境」を提示し、自分自身のみならず、多様なオトナたちとの出会っていくことを授業のグランドルールとしました。すると、実際に気になる人にインタビューしていく学生や活動やイベントに参加する学生など、それぞれが自分のやり方で「わたし」のためにプロジェクトを進め、深めていくことができていました。





at 長野

## 市立長野高等学校との4年間の軌跡

### 概要

今年度が最終年度となった市立長野高校では、2019年より4年間の連携協働を結び、多角的で地域に開かれた学校づくりを進めてきました。これまでの学びと生徒たちの姿を振り返ると、さまざまな人々を巻き込み、多くの変化と文化をつくってきたことに気づきます。中でも今年は、生徒たちのwill（やってみたい、これが好きといった自分自身の思い）からはじまる探究や「やってみる」経験が探究における当たり前の光景になったことなど、文化の土壌が生成されたことを強く実感する一年でもありました。

### “will”からはじまる、市立長野の探究

4年間の協働を経て、一番感じる変化は、生徒が自分のプロジェクトを生き生きと、楽しそうに語るようになったことです。自分の興味関心について、学校の外に飛び出しながら自由に探究できる文化になってきていることが、生徒が前のめりになった要因だと思います。協働1年目、やらされ感のある様子や、「本当にインタビューに行くんですか…??」と不安げに生徒に話しかけられたこともありました。しかし、4年経った今、ほとんどの生徒が自分の“will”からテーマを決め、当たり前のようにインタビューなどの多様なアクションを1度に限らず行い、「発表時間が足りない」と伝えたいことで溢れています。生徒の探究的な学びの質がここまで変化したこと、生徒の興味関心を軸に多様なアクションをする探究が学校の文化となっていることは、市立はもちろん、全国の高校教育にとっても非常に価値のあることだと思います。この変化と文化を共に体感できたことは、長野チーム一人ひとりだけでなく青春基地にとっても、今後につながる貴重な学びと財産になりました。

長野チーム スタッフ 植松



## 4年間の協働を振り返って（2019年～2022年）



1年目：プロジェクト発足1年目は、既存のカリキュラムを大きく変える変革期。先生方と青春基地でグランドデザインを1から設計し、新しい取り組みを行うということで苦戦もしましたが、テーマ設定にまちあるきや対話を取り入れ、学生や社会人も多く参加する学校をひらいた学びづくりにチャレンジしました。



2年目：2年目は、新型コロナウイルスの影響を受け、オンラインでの参加がメインとなりました。そこで生まれたのが「探究のワークブック」です。これは、直接青春基地のメンバーがファシリテーションするのではなく、生徒それぞれが自分のペースで自由にいけなくとも、探究が進められるようにした内容が特徴です。マイプロの始め方からインタビュー相手への連絡方法まで、探究を好きなところから自由に始められるような形で構成しました。



3年目：3年目は探究の冊子「CURIOSITAS」を作成。プロジェクトに関するエッセイを全員掲掲載し、分野別代表の生徒のスライドを掲載し、翼プロジェクトに関わっていただいた地域のかたに配布しています。また、探究について相談をしたり学校外の人と繋がる場として、「iLab」という教室を立ち上げました。2年目、3年目と翼プロジェクトが市立長野の中で定着していく時期でした。



4年目：連携協定を1年延期し、迎えた4年目。生徒たちはwillから取り組むプロジェクトが当たり前になったことで、生徒のアクションが学校外へと飛び出るのが当たり前になりました。学外のひとつと（大学生や地域のおとなたち、街の素敵なお店、専門家のかたなど）に「会いに行く」というアクションから変化から市立長野高校ならではの探究文化が定着し、先生方の自走がより深まってきました。



これから：市立長野高校の探究といえば、生徒の好き、気になる、といった生徒たちの興味関心から自由に広がっていく、そんな学びの文化が根付いています。今後、青春基地との協働は区切りを迎えましたが、今後もより探究を深めていくために「生徒同士の学び合い」を進めていきたいと学校全体で考えています。教師主導ではなく、生徒主導、そんな新しい学びづくりへと市立長野高校は挑戦し続けます。







## 創業8年目、新体制へ。

この度、創業から8年目となるNPO法人青春基地は代表交代をすることとなりました。創業者の石黒和己と新代表である佐野真知子の両者から、世代交代に向けたメッセージをnoteに綴っております。

## 世代交代の道のりー自律分散型の組織を目指してー

チーム内の方向性や形態をどうするべきか、1年間かけて議論してきました。

### ■ 月一セッションキャンプ

青春基地の全社会議でもある青春キャンプを月一で定例化。毎回の議論では「既存のプロジェクトで課題に感じていること」「これから青春基地でチャレンジしていきたいこと」などをアジェンダに、青春基地のあり方について考えてきました。考えることはできても「決める」行為にたどり着くことができなったり、意思決定を全体で行うことの難しさを肌で感じたりした期間でもありました。

### ■ ボードミーティングの発足

自律分散型の組織運営を実現するための経営チーム。

今後の組織の方向性や戦略について議論したり、組織開発や経営、事業展開などに関するリサーチを進めたりしながら、組織の新しい形を模索していきます。

世代交代を経て、改めて青春基地が作りたい未来とは？

もう一度ビジョンを描くことから始めています。

石黒・佐野の  
メッセージはこちら



Pick up!

podcast、動き始めています！

デロイトトーマツウェルビーイング財団の助成のもと、ウェルビーイングや余白をテーマに、これからの学びや学校についてオープンに研究する場として、podcastが始まりました！このpodcastは、公立高校の中で新しい学びづくりを実践研究している学びの研究者たちが様々なゲストをお招きし、オープンに学びや学校について考えていく番組です。

第1回：ファブラボ鎌倉代表・渡辺ゆうかさん

第2回：物理学者・西成活裕さん

をお招きし、それぞれのご活動について深掘りながら、教育の未来につながるヒントを一緒に見つけにいきました。教育現場で活躍する先生方、教員を目指す学生のみなさん、そして教育にちょっとでも興味がある方はぜひ一度聞いてみてください！

こちらから！↓



## 2022年度収支報告(2022.4.1-2023.3.31)

収入	受取会費	¥50,000
	受取助成金等	¥5,518,645
	事業収益	¥3,367,430
	その他(利息等)	¥46
収入合計		¥8,936,121

支出	事業費	¥7,235,583
	管理費	¥1,307,237
支出合計		¥8,542,820

収支	当期正味財産増減	¥393,301
	前期繰越正味財産	¥3,267,997
	次期繰越正味財産	¥3,661,298

特定非営利活動法人 青春基地

〒153-0051 東京都目黒区上目黒1-18-3シュウビル308

MAIL: info@seishun.style

公式HP: http://seishun.co

NPO法人  
青春基地